

[年度] 平成24年度和歌山県農林水産試験研究成果情報

[成果情報名] スターチス・シヌアータ県オリジナル品種における適正なクーラー育苗温度

[要約] スターチス・シヌアータ「紀州ファイングレープ」等4品種では、クーラー育苗時に昼間を30℃、夜間を15℃として管理を行っても、慣行のクーラー育苗温度（昼間25℃、夜間15℃）と同等の収量と切り花品質が得られる。

[キーワード] スターチス・シヌアータ、クーラー育苗温度、収量、切り花品質

[担当機関名] 農業試験場暖地園芸センター 園芸部 [連絡先] 0738-23-4005

[部会名] 花き [分類] 普及

[背景・ねらい]

スターチス・シヌアータの生産において、種苗費の低減を図るためには、オリジナル品種を利用した共同育苗施設の利用が有効である。しかしながら、近年育成されたオリジナル品種の生育特性については、不明な点が多く、これらの安定生産のためには、品種特性を明らかにし、適正な栽培管理を実施することが重要である。そこで、収量に大きく影響すると考えられるクーラー育苗時の温度が定植後の切り花本数に及ぼす影響について検討する。

[成果の内容・特徴]

1. 「紀州ファイングレープ」では、昼間（8:00～18:00）を30℃、夜間（18:00～8:00）を15℃とした場合、慣行の温度管理（昼間25℃/夜間15℃）と同等の収量が得られる（図2）。一方、昼間無冷房/夜間15℃、昼間25℃/夜間20℃あるいは昼間25℃/夜間無冷房とした場合には、切り花本数が慣行栽培よりも減少する。また、切り花の品質は、育苗時の温度にかかわらずほぼ同等となる（表1）。
2. 「紀州ファインバイオレット」、「紀州ファインイエロー」および「紀州ファインパール」においても、昼間30℃/夜間15℃とした場合に、慣行の温度管理と同等の収量（図3）および切り花品質（データ省略）が得られる。

[成果の活用面・留意点]

1. 農協等によるクーラー育苗施設における適正な温度管理の指標となる。
2. 安定的に昼間を30℃以下に保つためには、クーラー育苗施設内の温度ムラ等に注意する。

[具体的データ]

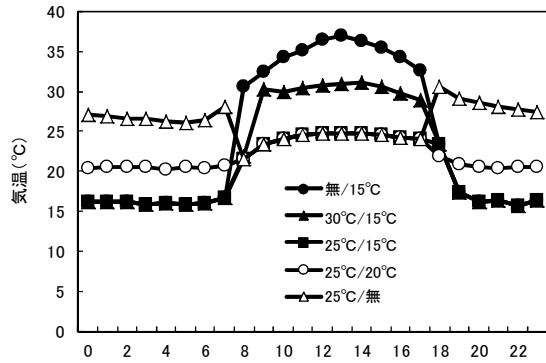


図1 育苗期間中の各時刻における気温の平均値  
\*2010年8月10日～9月9日

表1 育苗時の管理温度がスターチス・シヌアータの切り花品質に及ぼす影響

管理温度 (昼温/夜温)	切り花長 (cm)	切り花重 (g)	花房数 (個)	花房長 (cm)
無/15°C	88.3	59.9	7.9	8.5
30°C/15°C	89.3	56.6	8.2	8.2
25°C/15°C	87.9	55.6	8.7	8.7
25°C/20°C	87.8	56.2	8.6	8.2
25°C/無	83.8	51.6	7.5	8.4

品種: 紀州ファイングレープ

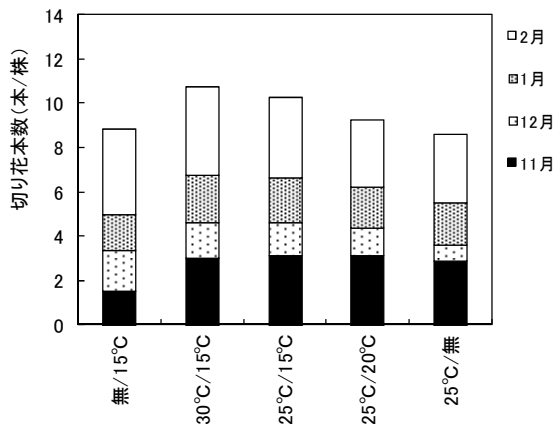


図2 育苗期間中の管理温度がスターチス・シヌアータの切り花本数<sup>2</sup>に及ぼす影響  
品種: 紀州ファイングレープ、定植: 2010年9月10日  
<sup>2</sup>2010年11月17日から2011年2月25日までの本数

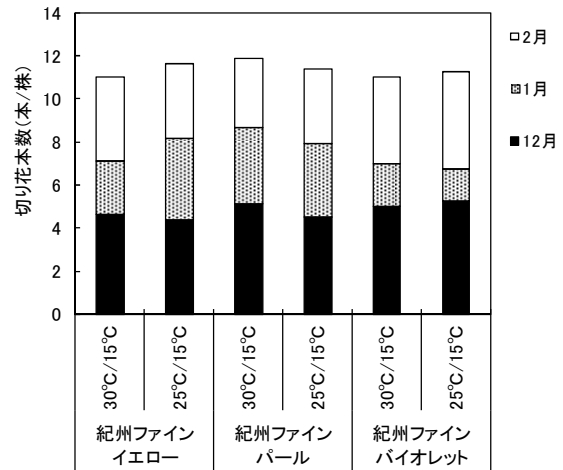


図3 育苗期間中の管理温度がスターチス・シヌアータの切り花本数<sup>2</sup>に及ぼす影響  
定植: 2010年9月日  
<sup>2</sup>2011年月日から2012年月日までの本数

[その他]

研究課題名: スターチスクーラー苗の高品質安定生産技術開発

予算区分: 新農林水産業戦略プロジェクト推進事業

研究期間: 平成 21～23 年

研究担当者: 島 浩二、松本比呂起、楠 茂樹

発表論文等: なし

HP 掲載の可否: 可